

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.19 2007年3月号

今月はひさしぶりに、ひろさちやさんのお話をしようと思います。あるとき、ひろさんのお宅に海外からの留学生が遊びに来たそうです。この留学生はイスラム教徒だったそうですが、イスラム教の神様はみなさんご存知のようにアラーの神です。留学生は相当熱心なイスラム教徒だったらしく、ことあるごとにアラーの神の偉大さについてひろさんに話したそうです。でも、あまりにも「アラー、アラー」と言うので、ひろさんはちょっと意地悪をしたくなって次のような質問をしたそうです。

「あなたはアラーの神が偉大だ、偉大だと言うけれど、そんなに偉大な神様がなぜ、お金持ちの人と貧乏な人がいる不公平な世の中を作ったんだい？」

この質問に対して留学生は相当困ったらしく、いくつかの議論のあと最後には、

「アラーの神の深い考えは私たちのような者にはわからない」

と答えたそうです。そこでひろさんは、アラーの神はきっとこんなふうに考えて今の世の中を作ったんだと思うよと言ったそうです。

「もしも、世の中にお金持ちしかいないとしよう。そこで、ある川に橋をかけようということになったとする。でも、みんなお金持ちだと、それぞれ「私はその橋を使わないから橋を作るためのお金は出さない」と言って結局橋が作れなくなってしまふよね。でも、お金持ちの人と貧乏な人がいる世の中では、貧乏な人はお金を出せないから、お金持ちの人がお金を出すことにすれば橋を作れるでしょ。アラーの神はそう考えて今の世の中を作ったんじゃないかな。」

これを聞いた留学生は大変感動したそうです。

みんなのためにお金を出す人は、いわゆる「お金持ち」の人だけとは考えないほうがよさそうです。貧しい国の人たちから見れば、たいていの日本人は「お金持ち」だからです。この話の大切なところは、自分が稼いだお金は実は自分のものではなく、みんなのために使うようにと、たまたま神様から預かったものではないかということだと思います。

自分のお金はついつい自分のために使うことを考えてしまう私にとって大変耳の痛い話ですが、みなさんはどのように思われましたか？

